

平成28年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	唐津市立馬渡中学校		
2 所在地	唐津市鎮西町馬渡島 41 番地		
3 校長名	江川 俊之		
4 学級数 児童生徒数	3学級 14人	5 実施学年 児童生徒数	全校生徒 14人
6 取組のねらい	<p>年齢、性別、身体的能力等の個人の特徴にかかわらず、すべての人にとって安全・安心な環境を考えさせたり、多様な個性や違いをお互いに理解して、相手を尊重する心や態度を養う。</p>		
7 取組の実際	<p>(1) 学習環境の工夫・改善 …集中しやすい場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前面掲示をなくし、余計な音を軽減し、刺激量を調整 <p>(2) ローテーションによる生徒対応と生徒対応力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に冷静に対応し、決して否定せず、かわしながらの肯定方法の研究 小栗正幸著「青年期の発達課題と支援のシナリオ」 小栗正幸著「発達障害児の思春期と二次障害予防のシナリオ」：参照 <p>(3) ピア・メディエーションの手法による仲間づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンガーマネジメントによる自己理解とソーシャルスキルの向上 ～思春期の心や身体、仲間の変化に適應できる力を育てる～ ～自分の特性に合った社会的スキルを学ばせる～ SCによる夏季休業中の職員研修会の実施 佐賀県教育センターHPよりH27プロジェクト研究：参照 <p>(4) 講師招聘による課外授業～みんなちがってみんないい～の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者疑似体験と車いす体験 【生徒の感想】 <ul style="list-style-type: none"> ・体の不自由な人たちの大変さが分かりました。これからは手助けをしてあげたい。 ・高齢者や体の不自由な人への意識が変わりました。今後は自分から進んで助けていきたいと思います。 		



・車いすの押し方など、介助する方法も学べたので、今後に活かしていきたい。



8 取組の成果と課題

本校には児童養護施設「聖母園」から通う生徒が5割在籍する。これまでもきめ細かな指導を行ってきたところであるが、今回改めてUD教育の視点を整理しつつ、教職員の生徒対応力の向上と、安全・安心な環境整備、多様な個性や違いの理解の深化を目指して上述の取り組みを実践した。生徒は個人的には様々な問題を抱えながらも、全体的には穏やかで、他を迎え入れる温かい雰囲気をもっている。他者を尊重し、何事にも精一杯取り組もうとする姿勢も身につけてきた。心身ともに健やかに成長しているものと思われる。小中一貫教育を実施する本校においては、同じ校舎内で小学校の低学年児童と共に生活することが、さらにほんわかとした雰囲気を作り出している理由であるかもしれない。日常の言葉遣いの指導や人権週間における取組等にもUD教育の視点が明確化され、教師の日常の教育活動にも、本事業取組のねらいが意識されやすくなった。あらゆる教育実践の中で本事業の趣旨が有効に作用しているもの考える。